

食卓で使う今月の作物

# ワケギ

Wakegi

よく株分かれして、軟らかい細めのネギがたくさん伸びます。香りに富むので、薬味やぬた（酢みそあえ）に重宝します。花が咲かないので、種ではなく肥大してくる種球を使って栽培します。

## 栽培のポイント

### ① 種球を準備しましょう

初めて栽培するときは、新しい種球を準備します。毎年栽培している場合は、5月下旬に、葉が枯れてしまつてから掘り上げて、風通しのよいところで保存しておきます。秋冬どりの早生種と、春どりの晩生種があります。

### ② 元肥に堆肥を入れましょう

前作が片付き次第早めに石灰と堆肥をまいて、耕しておきましょう。堆肥を入れておくとよく分けつします。

### ③ 植え付けの深さに注意しましょう

種球の芽が伸び始めた頃が植えどきです。外側の枯れた皮を取り除き、2〜3球ずつまとめて、球の先端が隠れない程度の深さに植えます。

### ④ 刈り取り収穫もできます

草丈が20〜30cmになれば収穫。掘り上げて収穫するほか、地上から3〜4cm残して刈り取り、液肥などを与えることで、新しく葉が伸びて再び収穫できます。

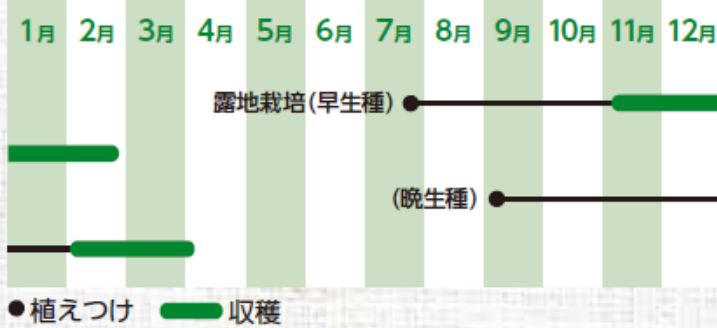


薬味やぬたに、使い勝手がよい便利な野菜です。プランターでも栽培できます。



旬彩蔵赤穂  
店長(営農指導員)  
福田 政浩

## 栽培カレンダー



## いまさら聞けない農作業のコツ!

### 中耕・土寄せ・追肥

野菜の栽培中にする作業で、「中耕」「土寄せ」「追肥」があります。中耕とは、うね間の通路や肩の土を浅く耕して除草することです。雨に当たって硬くなった畑の土は、中耕することで除草だけではなく土の通気性を良くし、根の発達を促す効果があります。このときに注意するポイントは、野菜の根をできるだけ切らないことです。

土寄せは培土ともいい、中耕の時に耕した土を株元に寄せることです。風雨で流れ落ちた土を元に戻し、株を安定させて風で倒れないようにする効果があります。また、イモ類などの肥大を助ける効果もあります。

これらの作業と同時に、肥料を土に混ぜ込むことを追肥といいます。トマト・ナス・キュウリなどの果菜類は、長期間にわたって肥料を必要とします。1回目の追肥は株元近くに、実が大きくなる頃から次第に株元から離して、根に直接肥料が当たらないようにしましょう。

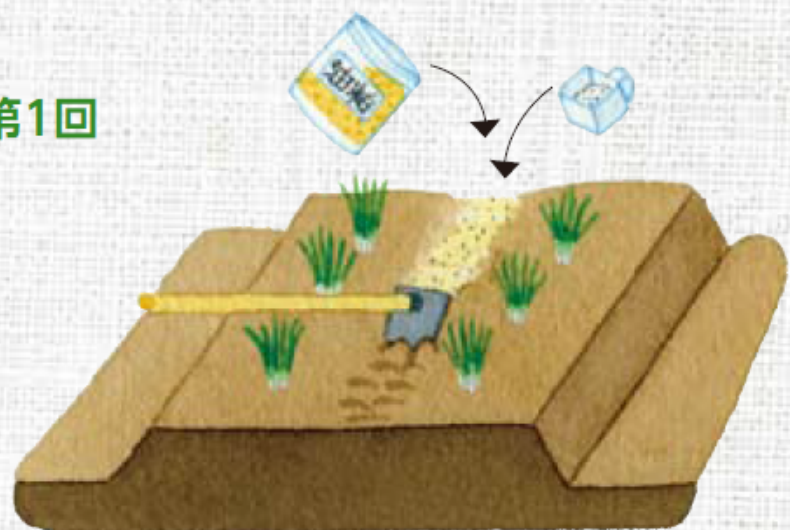




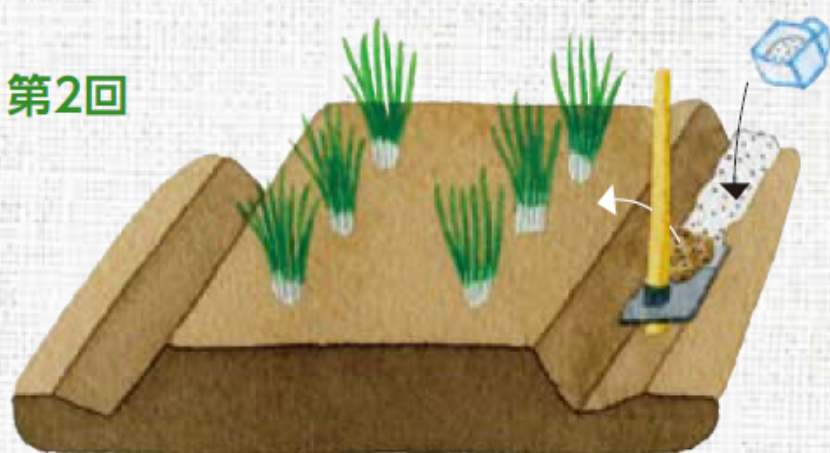
### 3 追肥

- 1回目: 畝の長さ1m当たり油粕大さじ2、化成肥料大さじ1杯を、丈が15cmくらいのとき列間にまき、軽く土に混ぜる。
- 2回目: 1回目から半月後、その後適宜、畝の長さ1m当たり化成肥料大さじ2杯を軽く溝を掘って施し、畝に土を寄せる。

#### 第1回



#### 第2回



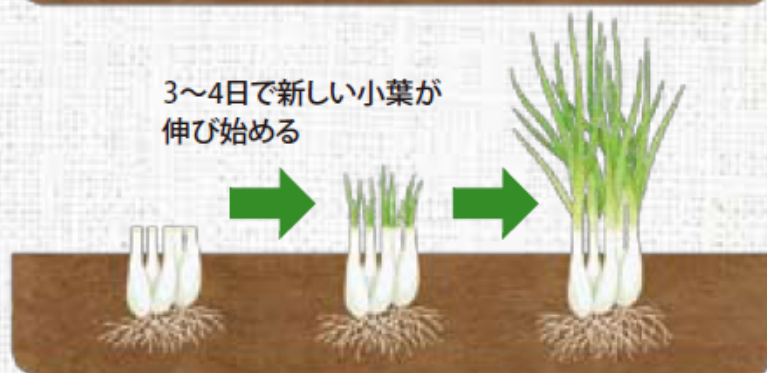
軽く溝を掘って施し、畝に土を寄せる

### 4 収穫

- 後作の計画がある場合は、株を引き抜いて収穫。
- 連続して収穫したい場合は、地上から3~4cm残して刈り取る。灌水を兼ねて液肥を与える。
- 3~4日で新しい小葉が伸び始めるので、15cm以上になったら再び収穫する。



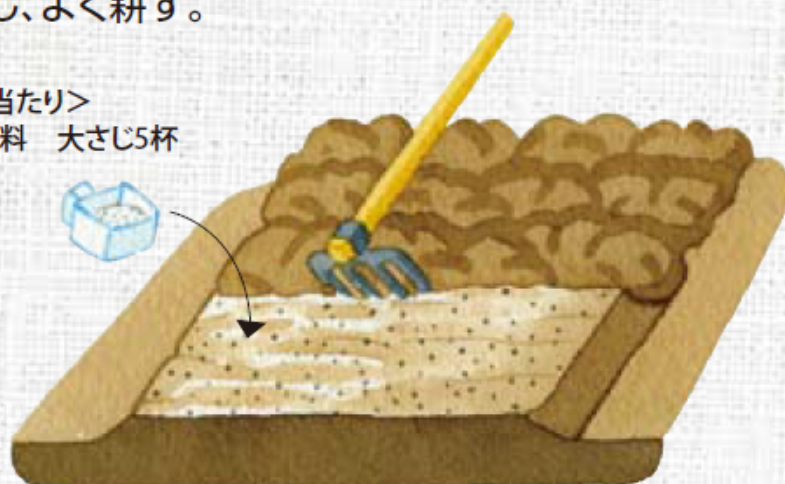
3~4日で新しい小葉が伸び始める



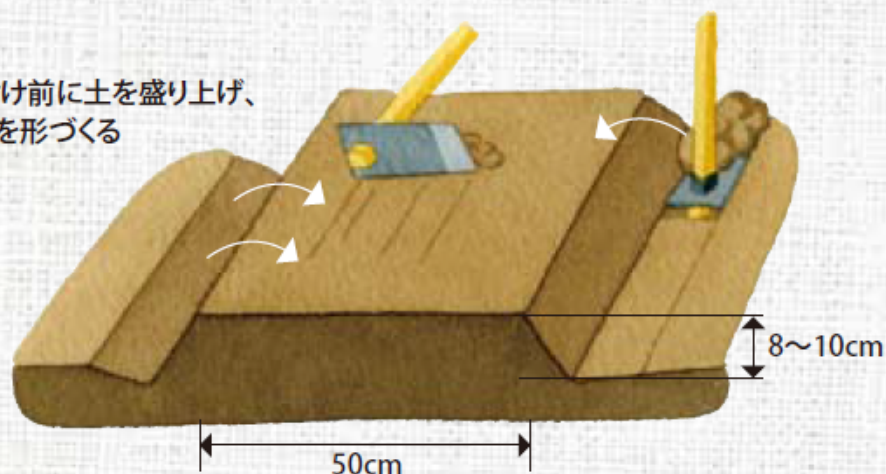
### 1 元肥入れ

- 早めに石灰と堆肥を全面にまき、よく耕しておく。植えどきが近づいたら、ベッドに当たるところに肥料を施し、よく耕す。

<1㎡当たり>  
化成肥料 大さじ5杯



植え付け前に土を盛り上げ、  
ベッドを形づくる



### 2 植え付け

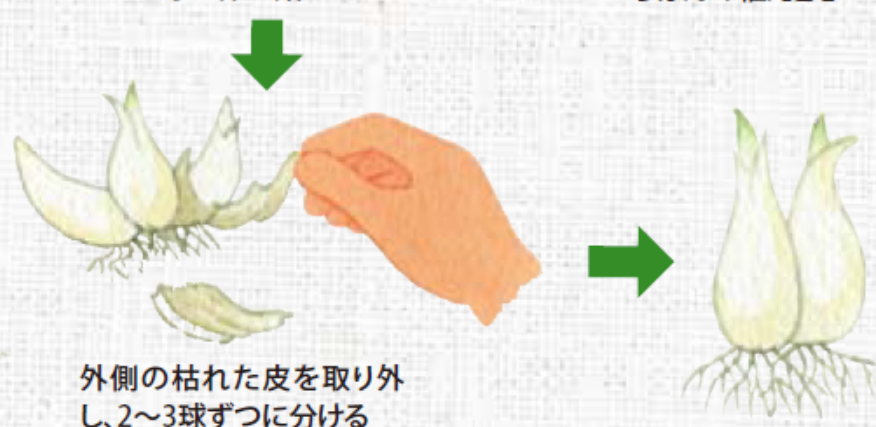
- 7~8月になると芽が伸び始めるので、外側の枯れた皮を取り外し、2~3球ずつに分ける。



7~8月ころになると  
芽が伸び始める



少し芽が伸び始めたころが  
いちばんの植えどき



外側の枯れた皮を取り外し、  
2~3球ずつに分ける

- 2~3球ずつまとめて葉先が少し地上に出るくらいに植える。

